



平成 28 年 11 月 9 日(水)定例会講演要旨

花は何のために咲くのか

手稲自然くらぶ代表 原田 和彦様



原田氏は前田の住人でイワクラホーム社長を退職後、手稲近郊を散策し植物観察に興味をもつようになりました。10 年ほど前から「井伊影男の植物観察」というブログで観察成果を発信し続けており、ほぼ毎日更新していて多くの方が閲覧しているそうです。講話は植物の写真を次々に提示しながら進められました。講話記録は写真がないので、お聞きした内容を文字だけでは伝わり難いのですが、お話の一部を抜粋して紹介します。

「花は何のために咲くのか」この命題は小学校 5 年生の理科でアサガオの観察を通して「種子を作り子孫を残すために咲く」というのが答えであるが、これでは百点満点ではない。花を咲かせなくても子孫を残すことができる。たとえば「挿し木」「取り木」「地下茎を延ばす」「むかご」などで**無性生殖**と呼ばれ雌雄に関係なく行われる生殖である。こうしてできた子どもは親と全く同じ遺伝子を持つため、大きな環境変化などが起きた場合に種が全滅してしまう恐れがある。そこで花を咲かせて、できるだけ多様な子孫を残そうとする。花さえ咲かせれば問題解決かというそうではない。**自家受粉**といって、雌しべが同じ花の雄しべの花粉で受粉すると、無性生殖と同じでみんな同じ DNA になってしまう。そこでなるべく自家受粉を避けようとする

「アキタブキ」(葉柄が 3m にもなるラワンブキはアキタブキの一種)は変わった植物で地上に花の茎はなく、茎を地下に延ばして直接葉を出し、花を出す(フキノトウ)。雌雄異株は雄花と雌花がそれぞれ別の木や株につく植物で、アキタブキは雄株と雌株に分かれている。つぼみの時に雄雌を見分けるのは難しい。雄花は花粉を出し終わったらお役御免で枯れてしまう。雌花は受粉してから 1m くらい背が伸び花を咲かせ、やがて綿毛のついた種を風によって飛ばす。山菜として食べるのは葉の茎の部分である。(若い花茎フキノトウも山菜として好まれる)。

「ヤマグワ」普通の植物の葉はみな同じであるが、ヤマグワは切れ込みがあるものや全く切れ込みのないものもある。こういうのを異形葉という。雄花は 4 本の雄しべをもつ。雌花は 1 本の花柱の先端が 2 裂する。結実した実は甘酸っぱく子どもたちが好んだ。クワという養蚕を思い出すが、この技術は稲作とともに中国からもたらされた。マグワに似ていて山に自生しているからヤマグワと命名された。北海道でもマグワを持ち込んで養蚕に取り組んだが、気候に合わずよく育たないのでヤマグワを利用した。

次回の定例会予定

平成 29 年 1 月 11 日(水)

「札幌市の埋蔵文化財
・手稲の埋蔵文化財」

札幌市観光局埋蔵文化財センター
藤井 誠 二 様

会場:区民センター3F 視聴覚室

「マムシグサ」雌雄異株であるがちょっと変わっていて、雄花・雌花を包み込んで覆い隠してる。匂いに誘われて昆虫が上から入り込む。入り込むのは容易だが抜け出すのが難しい構造になっている。昆虫は雄花の花粉を体につけて抜け出そうとする。雌花の方には抜け出す穴がない。中でもがくうちに受粉が行われ基部にある穴から抜け出すのである、受粉を円滑にするための仕組みで。普通は雄株は来年も雄株、雌株は来年も雌株であるが、マムシグサは雄株が雌株に雌株が雄株に性転換をするという変わった特徴を持っている。

その他「カラマツ」「シラカンバ」「アケビ」「クリ」「ヤナギラン」「ミズバショウ」「オオバコ」「エゾエンゴサク」「オオイヌノフグリ」「ツユクサ」「ツリフネソウ」…が紹介された。

自らの意思で移動することのできる動物は、オスが相手を「誘い」メスが相手を「選ぶ」という繁殖方法をとる。移動できない植物は繁殖器官である「花」を巧妙に駆使して、あらゆる生物の中で最も多様な繁殖方法を持っている。風を利用したり、虫を誘いこんだり、自らがはじけ飛んだり、鳥に託したり、種の保存のために知恵の限りを尽くして、「したたかに」「けな気に」生きていることに驚く。生命の神秘に触れた時間であった。(文責:永井)

片倉小十郎家第16代当主来札!



仙台藩白石城第16代当主片倉重信氏は2016年11月26日(土)家臣で家老の三木勉が開いた「時習館」に隣接する手稲記念館を視察されました。(館内をご案内する手稲記念館館長と茂内会長)



白石ふるさと会40周年・白石郷土館開設記念式典に出席するため来道されたご一行は、千歳空港から、北広島市議橋本博氏や白石ふるさと会、手稲郷土史研究会会員ら、20数名が待つ手稲記念館に到着(10:50)



館内を見学

武藤会長、第16代当主片倉重信氏、茂内会長

白石ふるさと会武藤征一会長、手稲郷土史研究会茂内義雄会長の案内で館内を見学、手稲開拓記念碑を背に記念撮影。次の目的地白石区へ向かわれました。

午後からの記念式典では、ご当主による白石ふるさと会武藤征一会長・手稲郷土史研究会茂内義雄会長両名に御揮毫が贈られた。その後会場をビール園に移し、華やかな懇親会の宴席で片倉家と白石ふるさと会、手稲郷土史研究会の親交が深められた。



(上)手稲開拓記念碑を背に記念写真



(左)ご当主より贈られた御揮毫



(中)資料を手渡す茂内会長



(右)バスで白石区へ向かうご一行